

子育ては家族の青春時代

筑西市 滝田 奈津美

「子育ては『家族の青春時代』なんだよ」

という言葉、結婚する前より耳にする機会がありました。

最初はそうなのだという位で、胸に止まる程の言葉ではありませんでしたが、今はこの言葉の意味が痛いほどわかるようになりました。

子供たちと過ごす、このキラキラとした今の一瞬一瞬がかけがえのない時間であり、もう二度と戻ってこない、愛しくて、きつと歳を重ねた自分が戻りたいと思う程、幸せな時間であるのだと思います。

「あと何回一緒にお風呂に入れるかな？」

「あと何回一緒の布団で眠れるかな？」

「あと何回大好きって伝え合えるかな？」

たくさんのあと何回が頭を過ります。

娘が一歳の頃、私は弟を身ごもり、切迫流産で自宅安静、切迫早産で約四か月間の入院となりました。

娘はその間、日中は保育園で、夕方は主人と過ごし、主人が夜勤の為、私の実家で祖母と就寝する毎日。

きつと一番甘えたい時期なのに、私はそばにいられていませんでした。

そんな中、娘は私のお見舞いに來た時にも、泣かずにバイバイをしてくれて、私の方が寂しかったのを覚えています。

しかし、主人と帰宅してから私のパジャマに包まりながら指しゃぶりをし、眠る娘の写真を見て、胸を締め付けられる思いでした。

「寂しいのを我慢してるんだ…ママを困らせないように、ママの前では頑張ってくれたんだ…。」

小さな体で懸命に戦う娘を見て、たくさんの涙が溢れました。

そんな懸命な娘の姿に、これから先、家族皆が幸せに過ごすためには、私が頑張る事くらい、簡単なことだと思わせてくれました。

かけがえのない存在がいる事、私を母にしてくれた事、娘のおかげで私は強くなれました。

無事に退院した日、真っ直ぐに育っていた娘が待っていてくれました。父、祖母、祖父、曾祖父、伯母、姪、甥…たくさんの家族から愛情をもらい、笑顔が太陽のように咲く娘。私の心もひなたのようにぽかぽかとなりました。

一緒にいられなかった時間は戻っては来ませんが、その時間も埋められるようにたくさんの愛を注ぎました。

公園で寝そべって帰りたくないとお泣きされたあの日、あの時の私は困ってしまって、曇った顔でしたが、動画で残したその娘の姿を見ると、今では愛おしくて自然と優しい表情になってしまいます。

同じ布団で娘と息子に挟まれて寝る毎日で、二人の寝相の悪さから寝不足、起きると肩こり、腰痛の私ですが、私のお誕生日に娘からもらったマッサージ券で、仕事の疲れも飛んでいくほど、心まで軽くなります。

「アイドルになりたい」という夢が出来た娘。ダンスも習い始め、上手になり、祖母に似て足が長く、おしゃれにも目覚めました。

主人は、

「早く大きくなればいいのにね。」

とよく言いますが、私はこのまま時間が止まってしまえばいいのにと感じてしまいます。

着実に成長していく姿を見守りながら、喜びも大きいものの、少し寂しい気持ちも入り混じった、なんとも言い表せられない、切ない気持ちです。

だからこそ、家族とのこの瞬間を大切に、一瞬一瞬を胸に刻みながら一緒にかけがえのない歳月を重ねていきたいと思っています。

私の生涯の中で二回目の青春時代。家族と一緒にこの青春時代を生きる今、「大変」と感じる事がたくさんあっても、やっぱりその「大変」が少し嬉しく感じる自分がいます。

それは、家族の皆と過ごしている「家族の青春時代」だからこそなのでしょう。

私の心の支えであり、安心できる存在であり、助け合い、守りたい存在でもあります。

言葉では言い表せない位、私はそんな家族が大好きで、心から愛しています。

私が皴くちやになっても、歳を重ねたあなた達とたくさん笑って、太陽みたいな笑顔がたくさん咲いていますように…。

私を母にし、無償の愛を注いでくれるあなた達にたくさんの感謝を…。

ぽかぽかのひなたの様に、大きく和やかな心がホッとできる場所であるように、私は家族のことを優しく悠然と包んで生きていきたいと思います。